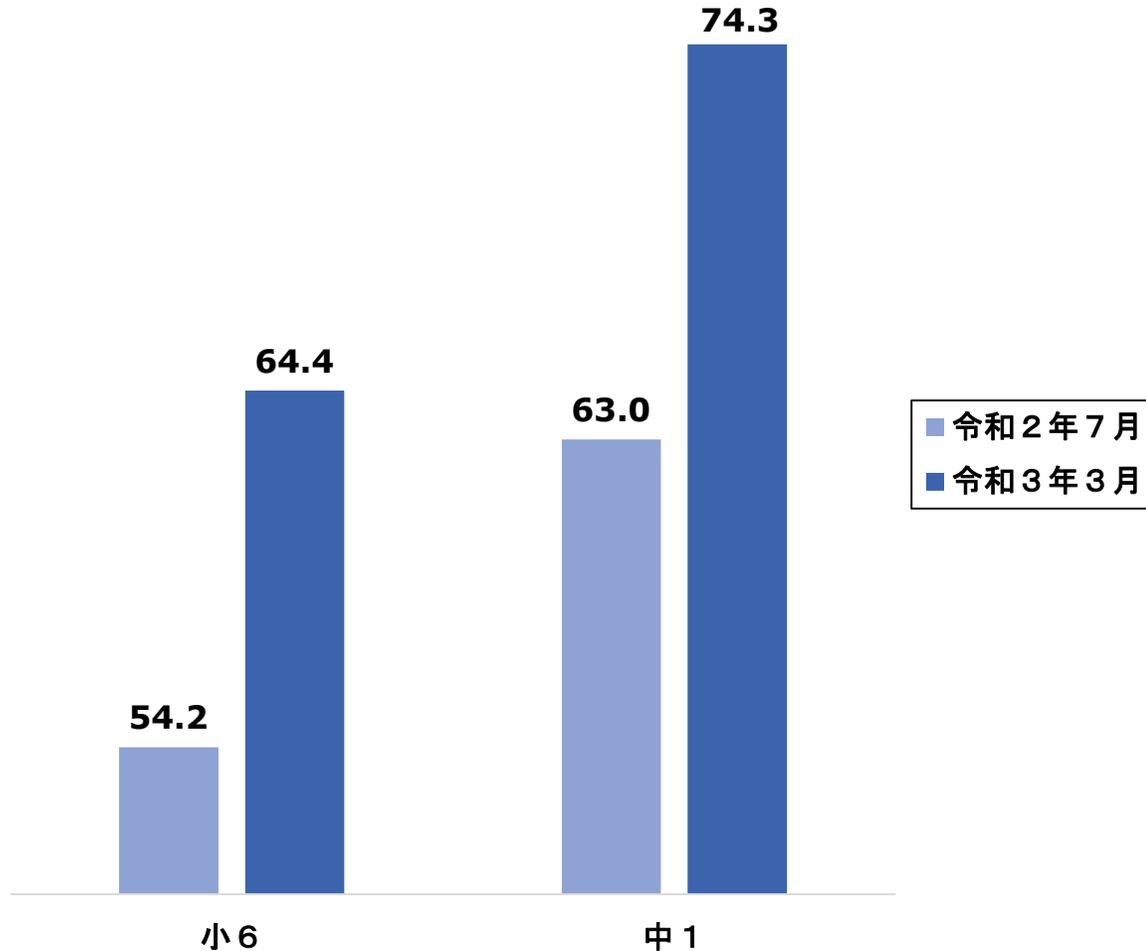


アンケート調査の結果

家で1番することがネット (%)



トラブルの経験等について

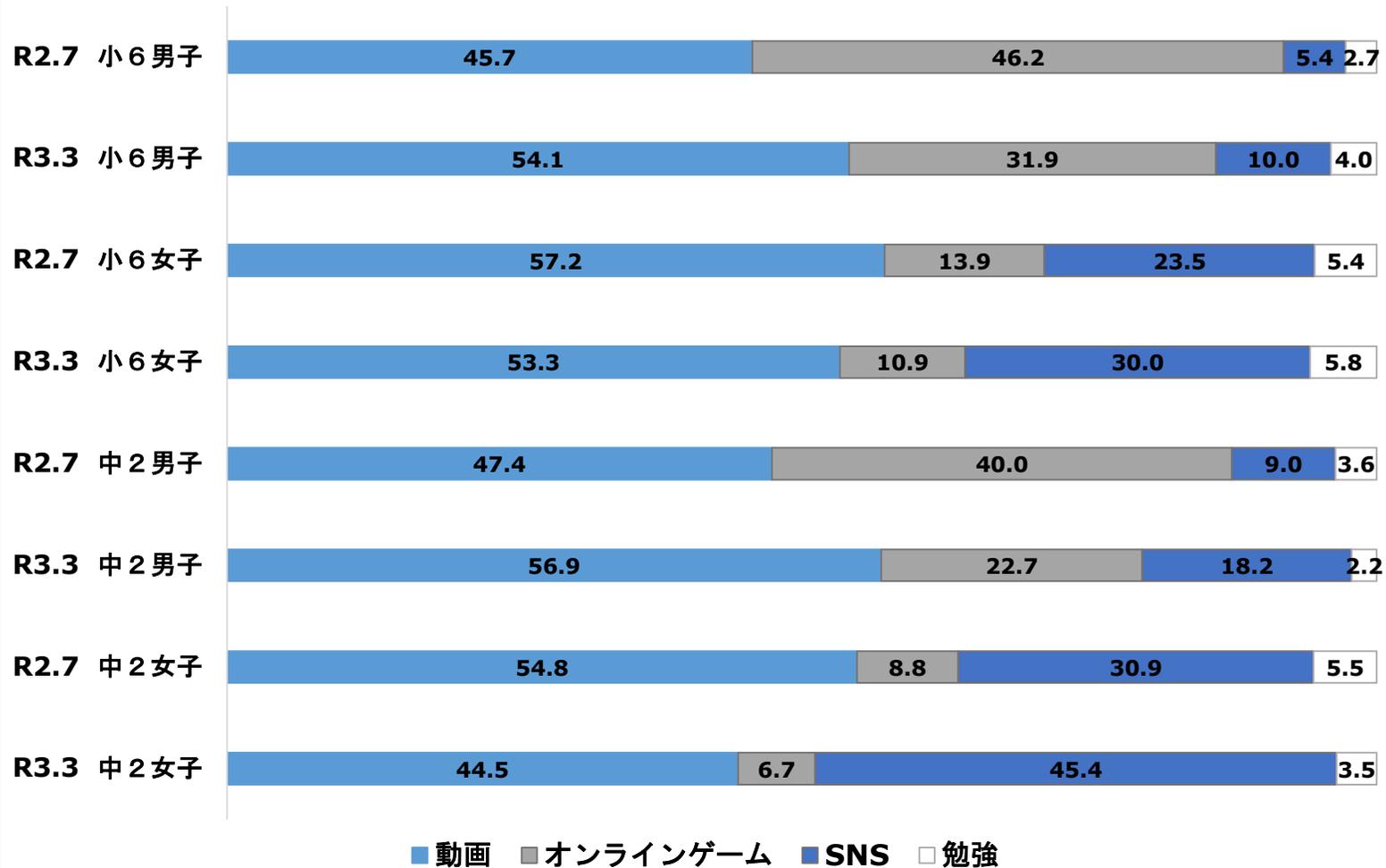
- ・ ネット上でのケンカ経験が、2倍以上
- ・ 課金の経験のある児童生徒の大幅な増加
- ・ 課金が5000円を超える児童生徒も増加
- ・ 面識のない人とのやりとり経験の増加
- ・ ネット依存傾向にある児童生徒が増加
- ・ 家で1番することがどの学年でも「ネット」



「ネット」に関するトラブルが激増

アンケート調査の結果

ネットで1番していること (%)



■ 小6 男子

- ・ 動画視聴、SNS 増加

■ 小6 女子

- ・ SNS 増加

■ 中2 男子

- ・ 動画視聴、SNS 増加

■ 中2 女子

- ・ SNS 増加

ネット依存傾向を測るための指標

キンバリーヤング博士のインターネット依存度テスト「DQ」

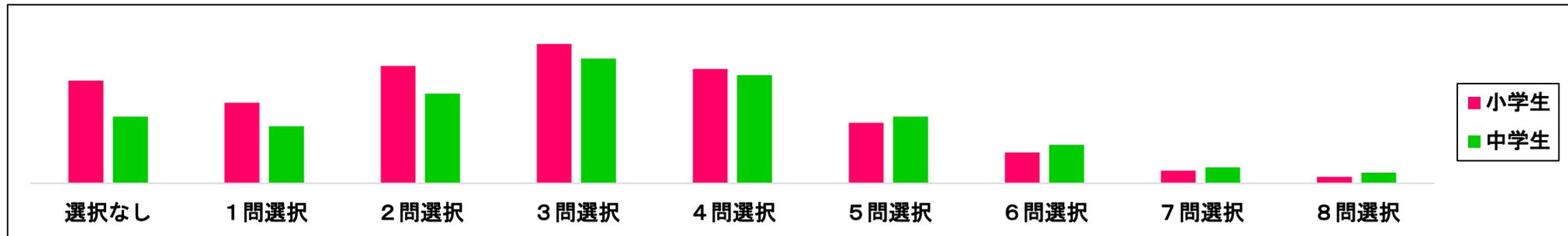
- 厚生労働省研究班が2017年度に実施した全国調査に採用
- 「はい」と答えると1点を付与し、0～8点に分類。
- 点数が高い方が依存傾向が高いと仮定。

※キンバリーヤング博士
インターネット依存症やオンライン行動についての専門家であった心理学者。

判定基準 : 該当数 2 以下 適応使用者
 該当数 3～4 不適応使用者
 該当数 5 以上 ネット依存が疑われる

【設問】

- ① ネットに夢中になっていると感じることがある
- ② 満足するためにネットする時間を長くしたいと思うことがある
- ③ ネットの時間を減らそうとしてうまくいかないことがある
- ④ ネットの時間を短くしようとするとうれしくなかったりイライラすることがある
- ⑤ 予定していたより長くネットをしてしまうことがある
- ⑥ ネットのせいで人間関係がうまくいなくなってしまうことがある
- ⑦ ネットに夢中なのを隠すために家族や友達にうそをついたことがある
- ⑧ 不安や落ち込みから逃げたくてネットを使うことがある



低

依存傾向

高

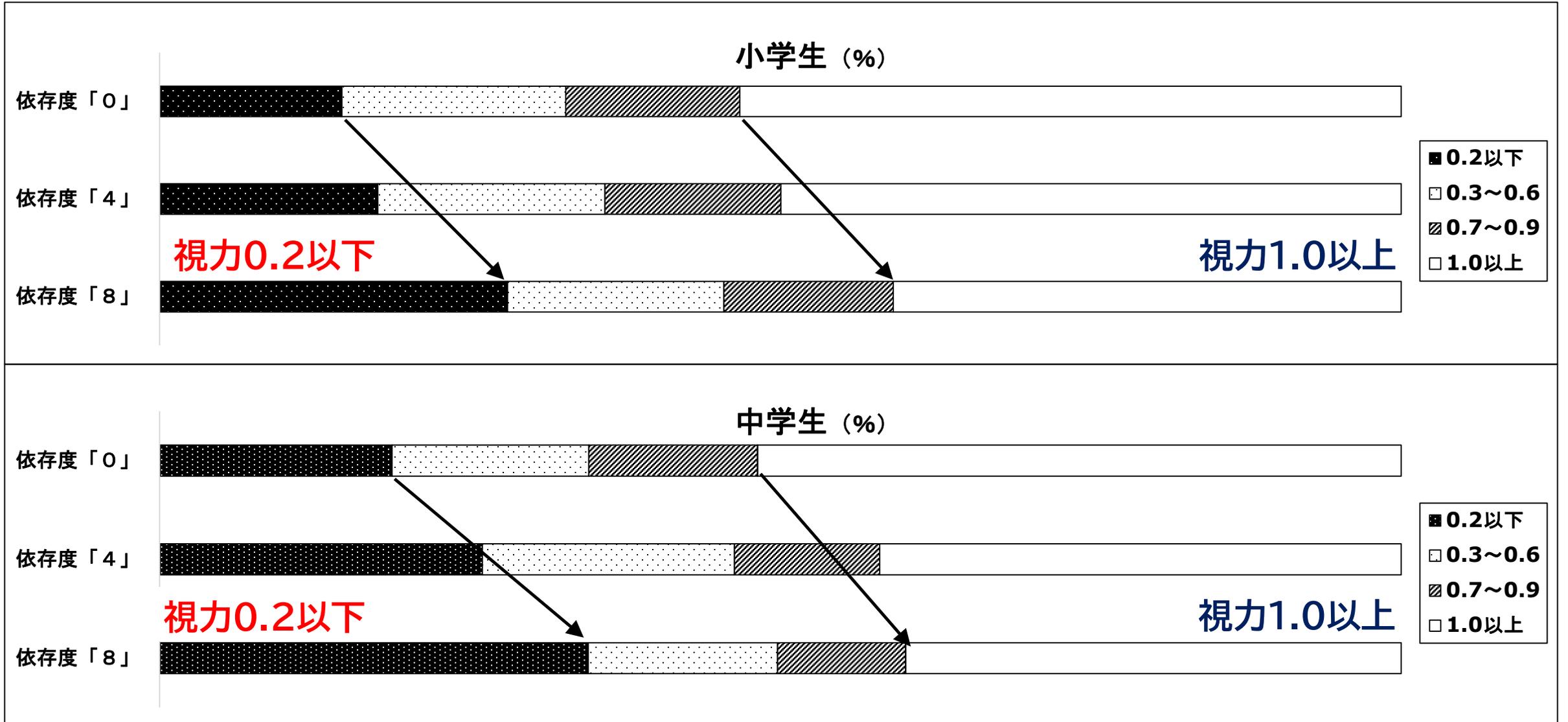
ネット依存傾向を測るための指標

【質問項目ごとの選択児童生徒数順位】

	小学生	中学生
1	ネットに夢中になっていると感じることがある	
2	予定していたより長くネットをしてしまうことがある	
3	満足するためにネットする時間を長くしたいと思うことがある	
4	ネットの時間を減らそうとしてうまくいかないことがある	
5	不安や落ち込みから逃げたくてネットを使うことがある	
6	ネットの時間を短くしようとするとうまくいかずイライラ	
7	ネットに夢中なのを隠すために家族や友達にうそをついたことがある	
8	ネットのせいで人間関係がうまくいなくなってしまったことがある	

ネット依存の初期症状？

ネット依存傾向と視力の関係



大阪市スマホサミットへ向けて

R2年度

- アンケート結果分析 → 生徒会交流会・大阪市スマホサミットの実施（課題認識と提言）

「ルールは必要。でも、自分たちの意見も聞いてほしい。」

R3年度

児童生徒によるルール策定についての提案（WG会議）

テーマ 「ネットの依存性をなくすために」

「ネットをかしこく使うために」

中学校

小学校

- 生徒会交流会 各教育ブロック（8月27日）

連携

- 小教研児童会活動部との連携（調整中）

※小学生の意見！

大阪市スマホサミット（11月20日）

・各教育ブロック代表 2 中学校が参加

・兵庫県立大学協力



ルール案の決定 ※各校での議論を促すルール

各校での活用 ※一人一人の児童生徒が考える機会とする。
※家庭での話し合いも促す取組につなげる。

スマホの適切な利用